

【施策評価調査】

施策名	1-3-1	公共交通システムの体系化と運用 高根沢町地域経営計画2006 該当ページ 76	76	施策目的 高齢者をはじめとした交通弱者の移動ニーズに合わせて、NPO法人、ボランティア団体などの地域活動団体や民間事業者などが適切な役割を担う、地域に密着した移動サービスを整備するため、町民の意見や現状の課題を盛り込んだ計画を策定し、運用を行います。
	担当部課			
環境変化	元気あっぱ巡回バス、福祉バスが平成21年9月30日をもって運行廃止となり、新たに平成21年10月1日からデマンド交通システムの運行が開始された。			施策内容 運用に当たっては、町内の主要施設やJR3駅、病院等の医療機関等を有機的にリンクしたもの、高齢者等の利便性がより向上するものとします。なお、策定にあたっては、現行の児童送迎バスとの併用、バス利用不便地域の対策等、町内の交通を総合的に検討します。また、運営主体・運行主体・運行形態等については広範な角度から検討し、利用者の利便性と経済性に優れた、効率的かつ効果的な運営を実現します。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)

指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：(元気あっぱ巡回バス、福祉バス、)児童送迎バスの利用者数(人)	平成16年度利用者数	計画	37500人	37500人	37500人	39000人	40,400人
	37,500人	実績	34391人	35655人	34598		
指標：デマンド交通利用者数		計画					31,400人
		実績					
指標：		計画					
		実績					
指標に関する特記事項	元気あっぱ巡回バス、福祉バスについては、平成21年度9月30日で廃止となったため、平成22年度の指標は、デマンド交通利用者数に変更						

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	1,476,000	3,795,000	220,000	32,361,000	
	決算	1,102,500	3,541,568	121,000		

事務事業事前評価 22年度の組立て

施策傘下事務事業	事業費	活動指標(アウトプット)	事業の実施によって、施策達成にどう貢献しますか?(アウトカム)	今後の方向性(総合評価)	条件付継続
デマンド交通システム運行事業費	H21 現計 32,361,000	デマンド交通利用者日平均86人	デマンド交通システムが普及することにより、移動する手段のない高齢者や子供たちが、安全で安心して利用できるシステムで自由に活動できることによって、生活の幅が広がるとともに、福祉の向上にもつながるなど地域の活性化も期待できる。また、マイカー利用の削減にもつながら環境への負荷も軽減される。	今後の方向性(総合評価)	条件付継続
	H22 計画 25,207,000				
	H21 現計			今後の方向性(総合評価)	
	H22 計画			今後の方向性(総合評価)	
	H21 現計			今後の方向性(総合評価)	
	H22 計画			今後の方向性(総合評価)	
	H21 現計			今後の方向性(総合評価)	
	H22 計画			今後の方向性(総合評価)	
	H21 現計			今後の方向性(総合評価)	
	H22 計画			今後の方向性(総合評価)	

施策事前評価 22年度の組立て

自己評価	後期計画に向けた施策展開のビジョン		H22年度の狙い
	今後の方向性 規模拡大	平成21年10月1日から運行開始したデマンド交通システムの登録者及び利用者を引き続き増加させながら町公共交通計画に基づき運行実績等を検証し、増車しながら運行の充実を図る。	
総合評価	継続的に施策展開がされていると評価する。後期計画に向け、実験運行を検証し課題の整理を行った上で、機能的なシステムとなるよう、乗車される方だけでなく、商業者なども巻き込んだ施策展開を検討すること。		